八戸南部氏庭園 10

八戸南部氏庭園は、江戸時代末期に鹿児島の島津家から第9代八戸藩主として信順公が迎えられたのを機に、弘化四年(1847)に造られました。

この庭は、薩摩藩のお抱えの庭師によるものとも伝えられ、馬淵川を借景としています。30本余りの松をはじめ、つつじやさつき、樹齢数百年といわれるもみの木が植えられ、築山、石灯籠、橋などが巧みに配置されています。天気がよければ、遠く秀麗な八甲田の山並を眺めることができます。

史跡　根城の広場 11

史跡根城跡は、中世の北奥羽を治めた根城南部氏の居城として、昭和16年に国史跡に指定されました。史跡の広さは、約18.5ヘクタールです。

根城は、建武元年(1334)南部師行により築城されたと伝えられ、寛永4年(1627)に遠野に国替えされるまでの約300年間、南部氏の居城となりました。現在でも、本丸・中館・東善寺館・岡前館・沢里館と呼ばれる曲輪や堀跡が残っています。

史跡の主要部分は「史跡根城の広場」として公園化されており、本丸跡には、発掘調査の成果をもとに、安土桃山時代の根城の様子が復原整備されています。

主殿と呼ばれる当主が儀式を執り行った建物を中心に工房・板蔵・納屋・馬屋などが復原されており、内部に入れば、正月の儀式の様子や、いろいろな道具類などを見ることができます。

丹後平古墳群 12

主に飛鳥時代から奈良時代の円墳で、未調査部分を含め100基以上の群集墳と考えられます。勾玉(まがたま)やガラス玉の玉類、錫製の釧(腕輪)、刀類など副葬品がたくさん発見されています。首長級とされる古墳のなかには、朝鮮半島の新羅で製作された「獅噛式三墨環頭大刀把頭」と呼ばれる金銅製の刀の把飾りが出土しています。律令政治が直接及ばなかった「蝦夷社会」を知るうえで重要な古墳群として、平成11年に国史跡に指定されました。

是川遺跡 13

是川遺跡は、八戸市の南東部、新井田川沿いの台地に広がる縄文時代の遺跡です。昭和32年に「是川石器時代遺跡」として国の史跡に指定され、広さは東京ドーム7個分、約37万6千平方メートルあります。縄文時代晩期の亀ヶ岡文化を中心とする中居遺跡、前期・中期の一王寺遺跡、中期の堀田遺跡の三つを総称して、是川遺跡と呼ばれています。

出土した遺物は優れたものが多く633点が国の重要文化財に指定されています。

清水寺観音堂 14

平安時代に慈覚大師によって創建されたと伝えられています。この観音堂は、堂内に残されている棟札から、天正9年(1581)に建立されたことが分かっており、県内最古の木造建築として、国の重要文化財に指定されています。

また、糠部33観音札所の第2番札所となっており、古くから人々の厚い信仰を受けていたことが知られます。

対泉院 15

対泉院のはじまりは、不明ですが、根城南部一族の新田氏と関係が深い寺として知られています。

対泉院山門には、文化8年(1811)に安置されたことを記した祈祷札を持つ十六羅漢が納められ、門の両脇の仁王像のところにも文化8年に寄進したことを記した板が付いています。門が文化8年の建立とすれば、三間一戸の楼門では、市内で最も古い楼門になります。

【餓死萬霊等供養塔及び戒壇石】

対泉院山門前に、天明3年(1783)の大凶作の惨状を記した餓死萬霊等供養塔と対泉院戒壇石が(県史跡)建っています。餓死萬霊等供養塔は、大凶作と疫病の大流行による餓死者、病死者を供養するため、新井田村の有志たちが願主となって建立したものです。裏面には、当時の天候異変、作柄、庶民の食生活、疫病での餓死者数、社会不安の状況や、後世のための教訓なども記されています

一里塚(十日市) 16

十日市の一里塚は、八戸から新井田・十日市を通る久慈街道沿いに作られたもので、八戸公園の敷地内に一基残っています。道路の反対側にもあったと思われますが、すでに失われています。　江戸時代、八戸と久慈の間を往来する人々は、この一里塚を道標としました。

大慈寺(松館) 17

根城南部氏の菩提寺として応永18年(1411)に創建され、根城南部氏と共に遠野に移ったと伝えられています。その後、盛岡藩初代藩主の南部利直によって再興されました。

山門は、残されている棟札から文政10年(1827)に建立されたことが知られ、三間三戸の楼門で、楼門の屋根としては珍しい茅葺の寄棟屋根として、県重宝に指定されています。

一里塚(頃巻沢) 18

一里塚は、慶長9年(1604)、徳川家康の命により、日本橋を基点として、一里ごとに全国の主要な街道に築かせたものです。南部地方では、慶長15年(1610)頃に完成したとされます。

南郷区にある一里塚は、八戸から市野沢・観音林を通り、二戸の堀野で奥州街道に合流する上り街道沿いに作られたものです。頃巻沢、市野沢(中野)、大森の3ヵ所に、非常に良好な状態で残っています。一里塚の底面直径は10m前後、高さは約2mあり、江戸時代からの姿をとどめています。

一里塚(市野沢・中野) 19

一里塚(大森) 20

龍興山神社 21

福一虚空蔵菩薩堂の向かいにある通称「虚空蔵山」の頂上にあり、 平重盛が最初に虚空蔵菩薩を納めたという伝説があります。

福一満虚空蔵菩薩堂 22

南郷区島守にあり、京都の嵐山、福島の柳津と並び日本三大虚空蔵のひとつとされています。丑年と寅年の守り本尊とされ、毎年6月の例大祭では多数の人が訪れます。

菩薩堂前には一対での大きさでは日本最大級とされる、丑と寅の石像があり、訪れた人が頭をなでる光景が多く見られます。

高松寺 23

南郷区島守にある臨済宗　妙心寺派の寺院です。宝徳元年(1449)の創建と伝えられ、糠部三十三観音第４番札所にもなっています。

高松寺にあるカヤの木は、推定樹齢800年、樹高20m、幹周り3.6m、昭和42年、県天然記念物に指定されています。治承元年(1177)平清盛の子重盛が、高松寺の前身である小松寺を建立し、その記念樹として植えたと伝えられます。

旧島守発電所 24

大正3年(1914)、八戸水力電気株式会社第二発電所として、新井田川の上流域に建設され、平成11年(1999)まで85年間稼働していました。現在は旧島守発電所保存公園として公開されています。県内最古の水力発電所として現存する貴重な財産として、平成21年に公園内の施設・設備が、登録有形文化財に登録されています。

階上町

三陸大津波記念碑 25

小高い丘の上に灯台の形をした記念碑があります。記念碑には昭和8年におきた三陸大津波で多くの犠牲者が出た事を忘れないために当時の記録が書かれてあります。

泊川神社 26

昔、大ダコに通行人が襲われるという出来事があり、この大ダコのいたずらを鎮めようと神に祀る事にし、泊川神社を建てました。タコは目が丈夫なことから、眼病にご利益があるとされています。初日の出の名所として知られています。

お台場跡 27

文化、文政のころ、外国船が八戸沖にあらわれるようになり、八戸藩が浦堅めのために小舟渡地区及び各所に築造したものです。

西光寺 28

文安元年(1444)、琳阿孝寛大和尚が道仏に西光寺を開山したとされます。これにより、現在の階上町の集落の基礎が誕生したといわれています。

舘神社(道仏館跡) 29

社伝によると、文安6年(1449)に、道仏館の館神(守護神)として戦いの神である八幡様を祀ったのが草創と言われています。「道仏館」は赤松民部吉時が館主であった天正19年(1591)、九戸政実の乱の際、九戸方に攻められ落城。吉時の長男は菩提寺西光寺の住職に、次男は館神社の神主となったと伝えられています。館の周りには三重の堀が廻り、境内には樹齢400年以上ある青森県最大級のモミの巨木が館神社を守るように当時の面影を偲ばせています。

銀杏の木 30

町内一の古木で樹齢推定1000年、幹範10m、樹高30m、気根多く垂れ下がり地上に達して着根しています。母乳不足の女性の信仰で知られています。町の天然記念物に指定されています。

潮山神社(應物寺観音堂跡) 31

神亀5年(728)、行基という高僧が観音像を安置し、海潮山應物寺として開山したと伝えられています。明治時代の神仏分離令の際に、現在の「観音堂(寺下観音)」と「潮山神社」に分けられました。

寺下観音 32

奥州南部糠部三十三ヶ所巡礼一番札所である寺下観音。観音堂の中には、千数百年前に行基(ぎょうき)という高僧が伝えたという観音像が安置されています。境内には西国三十三ヶ所巡礼の観音様が祭られており、ここでお参りすればそのご利益も受けられると言われています。

このほか潮山神社があり、神仏混交の地として古くから霊地として近隣の人々から信仰されてきました。毎年5月第3土日に開催される例大祭には、県内外から大勢の人が訪れます。また寺下の滝は古くから修験者が修業を積んだところで、今も不老長寿の霊水として崇められています。

灯明堂跡 33

享保15年(1730)に海上運航の安全を祈願して建立された灯明堂跡地。海岸まで約4kmの距離で、灯明堂の灯がよく見えたといわれています。

車道と灯明堂跡までをつなぐ道は、かつてこの道を人々が通った事を思わせるような趣深い道です。様々な樹種が両側に立ち並ぶ、少し勾配のある小路は清々しい気分にさせてくれます。

五重塔跡 33

延享2年(1745)に津要玄梁和尚によって建立されたと伝えられています。五智如来を本尊とする宝塔で。相輪の高さ七尺(約2.12m)、塔身三十二尺(約9.70m)、総高三十九尺(約11.82m)で我が国建築史上極めて異色の五重塔であったと言われています。大正2年(1913)に暴風雨のため倒壊し、現在塔はありませんが、ひっそりとした跡地を感じることができます。

トチの木 34

樹齢800年以上と推定され、樹勢旺盛で枯根もなく毎年結実しています。県の天然記念物に指定されています。

うつぎ 35

樹高約3m、全国に例を見ない古木で樹齢は推定できません。蛭子家の先祖が庭の生がきに植えたものとの言い伝えがあります。県の天然記念物に指定されています。